

拝啓 (一〇〇〇字程度あります 飛ばしてください)

吹く風もすっかり秋色に染まり、体の芯に染み入る寒さが早くも冬を告げ始める季節となりました。ファーストステージにご出演なさる皆様におかれましては、日々お元気に過ごされていますでしょうか。朝夕の冷え込みは毛布一枚では耐え難いものとなり、私もついに昨夜、押入れの底に横たわった掛け布団を日干しして、寝具だけでも冬の装いを整えることにしました。秋の夜長とは申しますが、その夜長に耐えるのもまた辛さと寂しさを伴う行為であると、足元から忍び寄る冷たさに体をすくめながら思い知りました。

そんな秋の寒さも、引き換えに得られる数多くの実りの前では、しかし些細なことのように思えるので不思議です。例えば、食べ物の数々。秋の味覚として代表的な秋刀魚の姿は、もはや庶民に親しい存在とは言えなくなりつつありますが、それでも秋はまだまだ豊富な収穫を私たちにもたらしてくれます。南瓜はますます甘みを増し、金色に光る稲穂に溜め込まれた白い粒は通奏低音のように私たちの食事を彩ります。馬鈴薯や玉ねぎははるか北海道から私たちの元に届き、大地が作り上げた美味しさをそのままの形で眼前に再現します。季節の食べ物だけではありません。夏にはありがたみを感じることもなかった料理たちは、今や格段に輝いて私たちの目に映ります。モツ煮込みなどの煮込み料理はまさにその良い例と言えるでしょう。固く冷たく凍り始めた私たちの体を、滋味と柔らかな温かみで解きさせる汁物のありがたみは、夏のあの苛烈な日差しのもとでは決して感じられない感覚でしょう。人間というのは火が無くしては生きられない、そんな古代の当たり前さえ確認してしまう時間が、喉を通る心地よい熱さによって作り出されます。

秋というのは食べ物によってのみ語られる存在ではありません。秋は古来より様々な二つ名と共に認識されてきましたが、その中には「芸術の秋」という言葉も含まれています。柿本人麿は『拾遺集』にて次のような歌を残しています。

あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の

長々し夜を ひとりかも寝む

秋の夜の孤独は、私たちに深い内省をもたらします。しかし心というのは一人一人の思考や感性で柔然に受け止められるほどに軽い存在ではありません。だからこそ私たちは諸書に共感できる作者の姿と自分の心を見出そうとし、音楽へどこかに取り残された情動への慰めを求めるのやもしれません。私たちが明日に向かうためには、進んでいく自己を支える肯定が不可欠です。仄暗い夜の底で私たちがセンチメンタリズムに染められるのも、次の朝を迎えるための行為の一つなのです。それを支えてくれるのは、同じような情動と共感を作り出すことのできる創作物以外にあるでしょうか。恋人とか言わないでください。泣くので。

さて、私たちはそのように芸術を享受する一方で、誰かを慰めるような音楽を作り出せる存在でもあります。合奏の喜びは創作の喜び、表現の喜びと密接に結びついており、完成度を高めるための練習は音楽の効果を増すために不可欠の行為といえましょう。そのため、段落からは箇条書きにて、十月十四日の合奏で遠藤さんよりご指導いただいた指示について列挙させていただきたいと思えます。以下の文章は保科が手打ちしたメモに準拠しているため、必ずしも正確とはいえない部分もあるかと思えます。ご確認のほどくれぐれもよろしくお願いいたします。

基礎練習の部

○バランス練習

- ・ Es・dur の場合、B♭・dur に比べて音がならない。縦もずれやすく、集中する必要あり
- ・ 全体的に、もう少ししっっかり鳴らしたい
- ・ 発音を気にかけたい。特にCグループについて。Bグループははっきりとした発音を移調した場合でも、ずれに対しては常に気をつけるようにしたい

○ハーモニー練習

- ・ B♭、Es の和音の五音がはっきり聞こえない
- ・ 音量を p に落とした時、音の変わり目がぼやけやすいのもっと丁寧に 雰囲気はもっと潜めるように

ゴッドスピードの部

○曲の詳細部

- ・ 冒頭が拍に乗り遅れているので慣れが必要
- ・ 特に十五小節〜など、インテンポに近いテンポだと走りがちになってしまっているので注意
- ・ 十六小節目、一拍目裏の音が間伸びするのでスタッカート気味に
- ・ 二十四小節目〜引っ張られてしまいがち
- ・ 三十五小節目〜二分音符は音価分伸ばす
- ・ 四十六小節目〜音量は落とす方向で
- ・ 五十一小節、六十小節、sub.p はもう少しわかりやすく落とす
- ・ 六十一小節〜特に発音明瞭に、三拍目からの二拍三連をはっきりと出したい
- ・ 八十二小節〜急がずに
- ・ 八十三小節〜伴奏がときどき転びそうになるため注意
- ・ 八十五小節〜二分音符が乗り遅れている。伴奏にテンポ間を合わせて
- ・ 百十二小節目〜発音明瞭に
- ・ 百十三小節目〜クラベスについて、もっと音量を
- ・ 同小節、スネアについて、アクセントの音がもっと聞こえたい
- ・ 百三十四、百三十五小節目、パーカッションについて、音の鳴る瞬間が微妙にずれている

ように感じられるため注意

・百三十七小節目、百三十八小節目への移行時にテンポ感を維持するように

○曲全体

・前半部は走りがちなので指揮をしっかりと見るように

・特に木管楽器について、半音階の連符はテンポ感を保ちながら

・発音の明瞭さが欲しい

ジャイアントロボの部

○曲の詳細部

・二十一小節目、クラリネット・サクソスはタイミングを合わせて吹く

・同小節、テンポ的にフレーズが引きずられて聞こえるので注意

・三十五小節目より音量変化について要注意

①リピート一回目

・十六分音符は縦をはっきりさせつつ控えめに

・四十五小節目からはトランペットがはっきり聞こえるように

・ティンパニはしっかりと聞かせる

②リピート二回目

・十六分音符ははっきりとした発音で

・四十二〜四十四小節目、四分音符の人々もしっかりクレッシェンドする

・五十一小節目、リタルダンドがかかるので要注意

・四十五小節目より四分音符は音を詰め込んで吹く

・同小節以降の長い伴奏はゆったりとした息を使う

・四十六小節目より四分音符の発音をはっきりと

・周辺のトランペットの旋律は内声をしっかりと聴かせたい

・五十三小節目より二分音符のメロディーを聴かせたい がっついて聴かせる場所ではない

ので注意 ソプラノサクソスの音色に寄せたい

・同小節より音域が低い伴奏は頑張りすぎないように

・五十五小節目、トロンボーンは伸ばしは頭だけを出し、その後引く

・六十四小節目より遅くなるため注意

・七十六小節目、木管低音は前との違いを見せるために入り方をちゃんと見せたい

・百三小節目より早くなるため注意

・百十九小節目より八分音符で動く人々がその後のテンポを決定するため正確に

・同小節からトロンボーンとトランペットのリズムを正確に

- ・百四十小節目〜四分音符を吹く低音は引っ張らず、テンポ通りに
- ・百七十九小節目〜全体的に走りやすくなる（特に二拍三連が関わり）ので注意
- ・二百三十二小節目、音量をしっかりとmfに落としたい
- ・二百三十五小節目、裏メロの二拍三連は走りやすいので要注意
- ・二百四十六小節目、八分音符はもう少しフリーズ感を意識して吹く
- ・二百七十四小節目、三拍目から指揮は倍速で振っている。ここは減速しない
- ・三百二小節目、非常に走りやすくなっているので注意
- ・三百四小節目、主旋律の音量はかなり大きめで
- ・三百六小節目、八分音符が待ちきれないことが多いため注意
- ・三百二十四小節目〜指揮を見て、細かく加速するテンポをしっかりと確認して欲しい
- ・三百七十三小節目〜十六分音符は音量を少し抑えて
- ・三百七十七小節目〜アツチェレランドがあるので指揮を見て
- ・三百九十七小節目にリタルダンドあり 忘れないように

以上が部日誌の内容となります。

余談ですがこの合奏が行われた十月十四日はこのステージの指揮者である遠藤さんのお誕生日でした。おめでとうございます。遠藤さんのお母様、いつも遠藤さんを産んでいただきありがとうございます。

末筆ながら今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。秋たけなわの好季節、ご健康に留意され、ますますご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

後記

さて、ここまで部日誌を書いてきたわけですが、一つ皆様に疑問があると思います。

『こいつなんでこんなに部日誌出すのが遅いんだ?????』

その通りです。本当にごめんなさい。申し開きの言葉もありません。単純にサボっただけです。作業が遅くて申し訳ありません。前書きの長さに比べて部日誌が短くてすみません。Twitterばかり爆速で書き込んでごめんなさい。

敬具

令和五年十月二十四日

保科悠太

定期演奏会1st ステージ 出演者皆様